

令和5年度 東京都立青井高等学校経営報告

統括校長 加藤 泰弘

着任2年目となる令和5年度は、前年度の課題解決を目指し、取組目標として組織的な学校運営、学習指導の充実、希望進路の実現、生活指導の徹底、特別活動・部活動の推進、安全教育・環境美化・健康指導の推進、募集対策、広報活動の強化と地域への貢献、経営企画室の学校経営参画を掲げ、それぞれの重点目標及び方策を示した。

特に大きな課題として捉え、改善目標の柱としたのが前年度に引き続き入学者選抜における募集定員割れの解消と中途退学者の減少である。応募人員は4年連続定員割れ状態であり、令和5年度入学者選抜は推薦選抜も定員割れだった。そこでこれまでの対策に加え、新入生アンケートを取って生徒の入学意思決定の動機を分析するとともに、X（旧ツイッター）及びインスタグラムを導入して本校の活動を広くアピールすることとした。

新入生アンケートを分析すると分割後期募集及び3次募集で応募した生徒に共通する傾向として、本校の説明会に来たり、ホームページ等で調べたりせずに出願し、入学する者が多いということが分かった。結果的に学校説明会等に参加した生徒に比べ、そうではない生徒の転退学率が高いということも分かった。この状況は在籍生徒が最も多い足立区教育委員会と共有するとともに、関係中学校への働きかけ、塾対象説明会での情報提供という形で周知し、本校で実施した学校見学会、説明会等でも参加者に伝え、口コミでも広まることを期待した。

その成果かどうかは不明だが、学校説明会等の参加組数（例えば中学生とその保護者が二人ないし三人で来校した場合は一組と数える）は前年度比150%増となった。その後の入学者選抜では、推薦選抜、分割前期ならびに後期それぞれの募集全てで募集人員以上の応募があり、合格者に一人の辞退者もいなかったため、5年ぶりに定数を満たすことができた。

一方、中途退学者については前年度の65%で大きく減りはしたものの、実数としては決して少ないとは言えず、引き続きの課題となった。今年度は入学後の指導態勢について検討し、まずは成績不良による進級、卒業不可となる生徒を減らすため、年度末に集中的に進級、卒業に向けた指導を改めることにした。これまで各教科に任せていた各学期末の補習等を組織的な取組に改め、「成績回復プログラム」と称して全教科で学期ごとに単位修得に向けた補講、課題を実施することとした。これにより年度末の進級指導とあわせて一定数の生徒が進級不可の状態を回復させたり、修得単位に余裕のある進級を果たしたりしている。

今年度は授業も学校行事等の特別活動もほぼコロナ前同様となり、かつての活気が概ね戻ってきた。その一方、コロナ禍で充実したオンライン学習態勢は維持しており、インフルエンザ等の感染症による学級閉鎖や特別な事情のある生徒への別室指導等で有効利用されている。来年度は一人一台端末の活用と併せてさらに充実させていく。

部活動については加入率の低さが課題だが、「一部一貢献」を合言葉に部活単位でボランティア活動に取り組んでいる。ボランティア活動は全校生徒が気軽に参加できる形にして、さらに充実させていく。

なお、学校評価アンケートにおいて、学校生活、学習指導、生活指導、進路指導それぞれの満足度を尋ねる質問にはどれも90%近くの生徒が肯定的評価をしており、本校の指導方針は概ねプラスに評価されていると受け止めている。来年度も課題改善に向けて積極的に取り組むとともに、入学したすべての生徒が充実した学校生活を送り、希望する進路先を決めて卒業できるよう努力していく。

今年度の取組目標と成果及び課題

取組目標と方策	成果と課題
<p>(1) 組織的な学校運営</p> <p>【重点目標】 中途退学者の減少</p> <p>ア 一人一人に寄り添った指導を充実させ、学力不振、学習意欲の低下、学校不適応等を理由とする退学者を減少させる。</p> <p>イ 広報活動等を通し、本校の指導方針、生徒の実態等を中学生等に正確に知らせることで、入学者のミスマッチを防ぐ。</p> <p>ウ 相互授業観察、研究授業、生活指導の事例研究等を中心にした校内研修を充実させ、授業改善、生徒への適切な対応等、教員の資質向上を図る。</p> <p>エ 青井高等学校いじめ防止基本方針に則り、学校いじめ対策委員会を中心に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組み、生徒が安心して学校生活を送れるようにする</p> <p>オ カウンセリング委員会を中心に、都立学校「自立支援チーム」と連携を図り、きめ細かなケアを心がけて中途退学者を減少させる。</p> <p>カ S I P 拠点校としての予算を活用して理数教育に係る生徒の興味・関心を引き出す取組を実施する。</p> <p>キ 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」の理念に基づき、体力の向上を図る取組及び部活動の推進を図る校内体制を整備し、体力の向上に努める。</p> <p>ク 管理職が率先してライフ・ワーク・バランスを推進するとともに仕事の効率化に努め、教職員の仕事と家庭の両立を応援する。</p> <p>(2) 学習指導の充実</p> <p>【重点目標】 基礎学力の定着</p> <p>ア 各教科がスクール・ポリシーを踏まえ、基礎学力の定着を図る。また、教員相互の授業参観(年2回以上)、研究授業、O J T の充実を図り、学校の授業力の向上を図る。そのために、教科会を年間スケジュールに沿って開催し、教科指導計画、習熟度別授業、少人数授業、生徒の学習状況を評価検証し教科指導力の向上に努める。</p> <p>イ 「青井の授業規律」を徹底し、授業規律を確保する。授業者はチャイムに始まりチャイムに終わる授業を徹底する。</p> <p>ウ アドバンストクラスにおいては各教科で指導計画の内容を十分に練り、進学・医療系専門学校・公務員試験に対応できる標準的な学習内容や問題演習を行う。なお、評価は定期考査や日頃の学習状況等を他のクラスと調整し、有利不利が生じないように総合的に判断する。</p> <p>エ 全学年・全クラスで朝学習を実施し、学習習慣の定着を図る。</p> <p>オ 習熟度別授業や少人数授業等により生徒一人</p>	<p>《成果》</p> <p>成績不振によって進級、卒業不可となる生徒を減らすため、年度末に集中していた補習、補講を各学期末に行って単位修得可能な成績に回復させる「成績回復プログラム」を実施し、転退学者数を減少させた。</p> <p>募集活動においては本校の教育方針や実情について、飾らず、ありのままの姿を伝えるように努めた。また、SNSを活用して普段の活動の様子等を積極的に発信した。結果として5年ぶりに応募人員が募集人員を上回り、定員を満たす学年となった。</p> <p>S I P 拠点校としての取組は生徒の理数分野における興味関心を高めることに主眼を置き、校外施設の見学等を積極的に行った。</p> <p>《課題》</p> <p>「成績回復プログラム」は全ての生徒が積極的に参加するには至らず、実際に回復させたのは対象の中の一部の生徒で、年度末指導を激減させるには至らなかった。</p> <p>成績不振に限らず、不適応等で退学する生徒も一定数おり、退学者数は前年度ほどではなかったものの、新たな策を講じて対応する必要がある。</p> <p>《成果》</p> <p>多くの教員が授業参観、研究授業の実施、外部での研修受講等の自己研鑽に励み、自身の授業力を向上させた。授業規律も概ね守られている。</p> <p>毎時の授業で身に付けるべき力を目標として掲げ、授業の終わりに振り返りを実施する教員も確実に増えており、メリハリの利いた授業が増加している。</p> <p>アドバンストクラスは各学年とも成績、生活態度が他クラスに比べて良好で、趣旨に適った運営がなされている。</p> <p>朝学習は任意の一定期間に複数回参加率調査を実施しており、参加率の高いクラスを表彰している。学習習慣の定着、遅刻者数の減少に貢献している。</p> <p>「エンジョイスポーツプロジェクト」は、ダンスやエクササイズ等を取り入れた授業を楽しむことができ、生涯スポーツにつなげる取組みとして一定の成果を上げた。</p>

- 一人の学力に応じたきめ細かな授業を展開する。
- カ 発達障害を含む障害のある生徒を積極的に支援するために、相談態勢の充実等、必要に応じて教育環境を整備する。
 - キ 到達度テストから理解度を把握するなどして、つまずきの克服を目指した分かりやすくて面白い授業を展開する。
 - ク 授業では毎回身に付けるべき目標を示すとともに、振り返りの時間も適宜設け、生徒のモチベーションを向上させる。
 - ケ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業を常に意識し、改善に努める。
 - コ 全教室に設置したスクールタイマーや一人一台端末を踏まえたICTの活用等により、生徒の学習意欲を喚起し、基礎学力の定着を図る。
 - サ 令和5、6年度「エンジョイスポーツプロジェクト」の指定校として、関係機関と連携を図りながら、保健体育の授業等を通し、個に応じて、運動やスポーツの多様な楽しみ方が学べる指導を展開する。

(3) 希望進路の実現

【重点目標】第一志望の進路の実現

- ア 「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、各教科、学校行事、部活動を通して、キャリア教育を推進し、「社会人基礎力」を身に付け、「キャリア教育で未来を拓く」を実践する。このため、進路指導部にキャリア担当を置き学年との連携を強化する。保育実習等の就業体験の充実を図り、社会的・職業的自立に必要な資質・能力を育む。
- イ 都立学校自立支援チーム、足立区就労支援課等と連携し、就職希望者や進路未決定者への支援を行い、進路実現を図る。
- ウ 卒業生や外部講師による進路ガイダンス等の内容を充実させ、社会人として必要な知識・マナーや礼儀等を生徒に確実に習得・定着させる。
- エ 進路指導部と学年が連携し、作文、論文、面接指導を組織的、計画的に、きめ細かく行うことを通して、論理的に考え、質問に正対して答えられる力を育成する。
- オ 生徒一人一人の進路指導の校内サーバーシステム「進路カルテ」「受験報告カード」「青井ポートフォリオ」を有効に活用していく。

(4) 生活指導の徹底

【重点目標】合理的で社会が認める適切な生活指導の実施

- ア 「時を守り、場を清め、礼を正す※」の実践と「青井の授業規律」に基づき、学校生活のルール、社会生活のマナー遵守を指導する。全教員がぶれない指導態勢を確立し同じ姿勢での生活指導を

《課題》

生徒の学力差が大きく、習熟度別授業においても授業レベルの設定が困難な場合がある。引き続き多様な生徒に対応できるとともに主体的・対話的で深い学びに向けた授業力の向上が必要である。

基礎学力の定着について、通常の授業の他、業者テストを活用して客観的な学力を測り、課題を改善する指導をさらに深める必要がある。

エンジョイスポーツプロジェクトは都教育委員会とさらなる連携を図り、生徒の実態により適応したプログラムに改善していく。

《成果》

昨年度同様、進路多様校という実態を踏まえ、担任及び進路指導部が生徒個々の適性を見きわめながら進路指導に尽力した結果、就職希望者は全員が就職先を決定した。大学、短大、専門学校は指定校、総合型選抜を中心に決定した。

特に、3年生になってから希望進路を固めるという生徒を減らす取組として、進路希望調査を積極的に活用し、未定である生徒に丹念に対応した結果、ほとんどの生徒が2学年修了時点で希望進路を決定させた。

《課題》

「進路カルテ」は担当者が変わるとうまく引き継げない可能性が高いという課題を抱えていた。蓄積データが膨大で使用ソフトも担当者以外にはなじみがなく、引き続きの課題として残った。次年度の大きな改善課題である。

《成果》

多くの生徒がルールを守って学校生活を送っており、学校全体の秩序は守られている。ルールを守れない一部の生徒に対しては、学年が中心になって組織的に指導し、改善を図った。

徹底する。

※「時を守り」遅刻指導（時間厳守）、「場を清め」頭髪指導・身だしなみ指導（制服をきちんと着ることと、化粧、爪への装飾、ピアス等の禁止指導）、「礼を正す」挨拶の励行、登下校マナー 授業マナー 学校施設利用マナー

イ 「東京都立青井高等学校SNS学校ルール」に基づき、家庭と連携し、教科及び特別活動の指導を通して、スマートフォンや携帯電話等を社会人として適切に利用できるよう育成する。

ウ 生徒が安全な環境の中で学校生活が送れるよう、当番表による校門警戒、巡回等全教職員が共通理解・共通認識をもって組織的に安全管理にあたる。

エ 地域の警察署と連携したセーフティ教室等を実施し、登下校を中心とした交通安全指導、携帯電話等の被害や犯罪防止、窃盗等の犯罪防止、薬物乱用防止指導を行う。

(5) 特別活動・部活動の推進

【重点目標】行事の満足度及び部活動加入率の向上

ア ホームルーム活動を充実させ、学校行事・生徒会活動等に生徒・教職員が一体となって自主的・意欲的に取り組むことで、生徒の学校への帰属意識を高め、安定・充実した学校生活を送らせる。

イ 校章をデザインした徽章を全生徒が着用することにより帰属意識を高めていく。学校行事や集会の折に校歌を斉唱し、青井高校の生徒であることの誇りをもたせる。

ウ 部活動への加入を促し、達成感を味わわせるとともに良好な人間関係づくりを推進する。

エ 全ての部活動が地域の行事、地域貢献活動等に参加する「一部一貢献」を実施する。

オ 学校行事、運動部活動等を通し、運動する機会を増やすとともにスポーツの楽しさを体感させる。

(6) 安全教育・環境美化・健康指導の推進

【重点目標】生命に関わる重大な事故、いじめ、不登校等の未然防止

ア 避難訓練、防災訓練、避難所運営訓練における防災活動支援隊等による住民誘導を通して、災害発生時に、自助・共助・公助の適切な行動が取れるよう指導する。

イ 薬物乱用防止、喫煙防止、性教育、食育、生命尊重等、様々な安全教室を実施し、健康的な生活習慣の確立及び健全育成を推進する。

ウ スクールカウンセラーによる1年生全員との面接を行い、生徒・保護者が、気軽にスクールカウンセラーと相談できる態勢を整えることでメンタルケアを充実させる。

セーフティ教室、生活安全指導等は生徒の反応が良く、全体として高い評価を得ている。組織としての見守り態勢も充実させており、生命に関わる重大事故はもちろん、管理内事故も3件にとどめた。

《課題》

特別指導件数が増加し、教員が個別指導に追われた。また、生徒の相談件数は高止まり状態であり、自立支援チームの負担も増加している。支援センターとうとのさらなる連携で改善に努める必要がある。

昼休憩時の立ち番、定期的な校内巡回はライフ・ワーク・バランスの観点からも状況を見ながら縮小化等の見直しを検討していく。

《成果》

体育祭、文化祭等を通してホームルーム活動を活性化させ、帰属意識、仲間意識を向上させるとともに充実した学校生活に寄与した。

部活動における、SNSの発信、SIP拠点校としての取組推進、ボランティア活動など、積極的に声をかけ、活性化、地域貢献等を進めることができた。

《課題》

加入率が前年度より低下し、参加人数が各部とも減少傾向にある。特に文化部が低迷しており、加入者を増やす取組が重要な課題である。

《成果》

コロナ対応が終わり、コロナ禍前同様に活動ができるようになったことを受けて地域の防災訓練に協力し、地域貢献を果たした。

薬物乱用防止、性教育等、生徒対象の特別講座を積極的に開催し、生活安全と自分の命を守る教育を充実させた。

多様な生徒が在籍する現状を踏まえ、特別支援教育、発達障害等に係る研修を複数回実施し、教職員の意識向上に努めた。

避難訓練において、できるだけ実際の非常事態に近づけていくため、事前連絡なしの訓練に移行する方針に基づき、まずは生徒に訓練開始時間を告げず

<p>エ カウンセリング委員会を中心として、スクールカウンセラーや外部講師の活用を図り、教職員のカウンセリングスキルを向上させるとともに組織的な教育相談体制を確立し、生徒の悩みの解消、生命に関わる重大な事故、いじめ、不登校等の未然防止を図る。</p> <p>オ 特別支援教育に対する研修会等を開催し、生徒理解を深めると同時に生徒の実態に応じて適切な対応ができるようにし、一人一人の生徒の伸長を図る。</p> <p>カ 教室をはじめとした清掃活動を徹底して校舎をきれいに保つとともに、施設を大切に使う姿勢を育む。</p> <p>(7) 募集対策、広報活動の強化と地域への貢献</p> <p>【重点目標】 定員割れ状態の解消</p> <p>ア 合同説明会、学校見学会、学校説明会、中学校や塾訪問等を充実させるとともに、ホームページの更新と内容の充実に努める。</p> <p>イ 教務部、募集対策委員会を中心に学校内外の募集活動計画を策定して組織的に推進する。</p> <p>ウ 募集、広報活動の一環として生徒の活動を紹介したり、生徒自身の声を発信したりするなど、生徒を積極的に活用する。</p> <p>エ 地域清掃等の地域貢献活動をはじめ、インターシップ、近隣の幼稚園、保育園、福祉施設等での奉仕活動、避難所運営訓練への参加等を通じて、地域社会との連携、交流を深める。</p> <p>オ 小学生向けの公開講座を開講等、本校の教育機能と施設を地域・社会に提供することを通して都民の学習、スポーツ活動の振興に貢献する。</p> <p>(8) 経営企画室の学校経営参画</p> <p>【重点目標】 自律経営推進予算の適切な執行</p> <p>ア 爽やかで誠実、好印象の接遇を目指すとともに、学校経営計画に基づく教育活動が円滑に遂行できるよう、経営企画機能を充実させる。</p> <p>イ 事務担当者に経営企画室長へ業務の進捗状況を報告させ、進行管理を適切に進める。</p> <p>ウ 校内の施設の安全管理及び修繕を積極的に推進する。</p>	<p>に実施した。</p> <p>《課題》 不登校の生徒、事情があつて教室外で授業を受ける生徒等が増加傾向で、教職員の対応が物理的限界を迎えつつある。また、SC、YSWへの相談件数も増加かつ相談内容が複雑化しており、慢性的な業務過多状態が続いている。</p> <p>《成果》 様々な方策を実行に移した結果、本校に興味を示す中学生が増加し、見学会、説明会への参加者数はいずれも前年度を上回り、推薦選抜、分割前期募集、分割後期募集の全ての入学者選抜において募集人員以上の応募があり、定数を満たすことができた。 地域貢献活動は、地域の方々から口コミ等で本校の貢献ぶりをアピールすることにつながり、本校のイメージアップに大きく貢献した。</p> <p>《課題》 引き続き新たな取組に挑むとともに、募集対策、地域貢献に力を入れて本校の魅力をアピールし、定員割れが生じることの無いように努力していく。</p> <p>《成果》 経営企画室長を中心に適切な業務遂行に取り組み、年間を通して遅滞することなく円滑に各業務を進めることができた。教職員との関係も良好で、大きな課題はない。</p> <p>《課題》 学校経営参画意識をより高め、課題把握と改善に努めていく。</p>
---	---

重点項目の数値目標

目 標	令和5年度	令和4年度
1 入学者選抜分割前後期応募倍率	前期 1.23 倍 後期 1.63 倍	前期 0.69 倍 後期 0.72 倍
2 進路決定率	91.0%	88.6%
3 退学者数	28 名	40 名
4 生徒事故件数（管理内）	3 件	3 件
5 部活動加入率	37.7%	43.8%
6 ホームページ更新回数	94 回	92 回
7 年間遅刻延べ回数	5612 回	5641 回
8 学校生活充実度肯定回答（生徒）	85.8%	83.9%
9 学習指導満足度肯定回答（生徒・保護者）	87.4%	85.7%
10 生活指導満足度肯定回数（生徒・保護者）	87.4%	86.2%
11 学校行事満足度肯定回答（生徒）	88.9%	82.6%
12 部活動満足度肯定回答（生徒）	72.4%	73.6%
13 いじめ対策への肯定回答（生徒）	79.9%	81.6%
14 進路指導満足度肯定回答（生徒・保護者）	88.9%	90.2%
15 第3学年当初の第一希望の進路先実現率	90.0%	88.6%
16 学校説明会等参加組数	237 組	160 組
17 ボランティア活動への参加生徒数（延べ人数）	73 人	46 人
18 一部一貢献達成率	20%	—
19 勤務時間外の在校時間が月間 45 時間を超える教員の年間延べ人数	121 人	150 人